報告

海洋大と福島水試が測った福島の海

日時：2013年11月3日（日）11時～16時
会場：東京海洋大学　楽水会館（東京都港区港南4－5－7）

1．11月3日福島の海@海洋大プログラム

2013年11月3日（日）、東京海洋大学（海洋大）楽水会館［品川キャンパス］において「海洋大と福島水試が測った福島の海～サイエンスカフェとポスターで紹介します～」（福島の海@海洋大プログラム）が開かれました。

ほぼ2年半前の2011年3月11日に東日本大震災とともに起きた東京電力福島第一原子力発電所（原発）事故によって、福島県の沿岸漁業は大きな打撃を受けています。震災直後は津波による被害と原発事故の全体像が見えない混乱のため、そしてその後は水産物から放射性物質が検出されたことから、福島県の沿岸漁業は操業を自粛しています。

しかし、こうした状況のもとで、福島県の漁業者、水産加工・流通業者をはじめとする関係者の方々は、安全な水産物を供給するために、さまざまな努力を積み重ねています。2012年6月には相馬双葉漁業協同組合が、また、2013年10月にはいわき市漁業協同組合が、放射性物質が検出されなくなった海域・魚種について、小規模な操業と販売を試験的におこない、出荷先での評価を調査し、福島県の漁業再開に向けた基礎データを得ることを目的とした、「試験操業」を始めました。

試験操業の根拠をなすのが、福島県水産試験場が漁業者の協力を得て震災直後から継続しておこなっている「水産物における放射性物質のモニタリング」です。2011年4月から2013年9月まで、177魚種、13,237検体について、放射性セシウム濃度を測り、海域ごと、魚種ごと、そして、時間の推移にともなう傾向を明らかにしています。

東京海洋大学もまた、福島県水産試験場と協同で、福島県沿岸の海洋環境・生態系の状況や放射性物質の分布について調査研究をおこなってきました。2011年6月以来、東京海洋大学練習船「海鷹丸」または「神鷹丸」によって、また、漁業者の方々の協力を得て、さまざまな観測をおこなっています。

今回の福島の海@海洋大プログラムは、こうした調査研究の活動と結果を紹介することがおもな目的です。福島県水産試験場の研究員、福島県水産事務所の水産業普及指導員、いわき市漁協・相馬双葉漁協の漁業者・職員、いわき市水産振興室職員の方々もスタッフとして参加、総勢約40名で運営しました。当日は、海洋大の大学祭「海鷹祭」最終日ということもあって、ポスターセッションに約300名、サイエンスカフェ[1]に約70名、と、たくさんの方々にお運びいただきました。

11月3日福島の海@海洋大プログラム実行委員会

[1]サイエンスカフェとは、科学の専門家と一般の人々が、飲み物を片手に科学について気軽に語り合おうとする場です。専門家がわかりやすく話をした後、参加している人たち全員で、その話題について話し合います。近年は、科学や技術に限らず、自然科学、社会科学、人文科学のさまざまな分野についてさかんに開かれています。
　サイエンスカフェは、専門家でない人たちが専門家の話を聴くことはもちろん、専門家が専門家でない人たちがわからないことや疑惑に思っていることを知る機会であり、さらに、参加した人全員が、互いの意見や疑問を知る機会にもなります。

《目次》

1．11月3日福島の海@海洋大プログラム
2．当日の内容
3．写真：ポスターセッションとサイエンスカフェ開始前
4．写真：サイエンスカフェ 前半
5．写真：サイエンスカフェ 後半
6．参加者・スタッフの「ふりかえりシート」から

2．当日の内容

海洋大と福島水試が測った福島の海
～サイエンスカフェとポスターで紹介します～

日時　2013年11月3日（日）
- ポスターセッション　　11時～16時
- サイエンスカフェ　　13時開場、13時30分～16時

会場　東京海洋大学品川キャンパス　楽水会館1階大会議室
参加　無料・自由（会場に直接お越しください）
主催　東京海洋大学、東京海洋大学江戸前ESD協議会、
いわきサイエンスカフェ実行委員会

■ サイエンスカフェ「いわき＋相馬の海と魚を語ろう」@海洋大 ■

全体進行　河野　博・川辺 みどり（東京海洋大学）

13時　開場

13時30分　開店のご挨拶
石丸　隆（東京海洋大学）

13時35分　アイスブレーク：テーブルで自己紹介

13時40分　いわきの磯根や砂浜の生物の放射性物質と行動を測る
荒川 久幸・内田 圭一（東京海洋大学）

14時10分　沿岸生態系における放射性物質の分布
石丸 隆・神田 穣太（東京海洋大学）

14時40分　水産物の放射性物質を監視する
水野 拓治・神山 享一（福島県水産試験場）

15時10分　休憩／サンマのみりん干し試食（いわき市水産振興室）

15時20分　漁業の現場から
- いわきの現況
山野辺 貴寛（福島県水産事務所）
佐藤 芳紀（いわき市漁協 四倉支所）
- 相馬の現況
千代窪 孝志（福島県水産事務所）
佐藤 泰正（相馬双葉漁協 原釜支所／相馬漁業産直研究会）

15時30分　福島の海と魚をみんなで考える
平川 直人・水野 拓治・早乙女 忠弘・神山 享一（福島県水産試験場）
根本 芳春・鷹崎 和義・山野辺 貴寛（福島県水産事務所）

16時　閉店のご挨拶　安達 広昭（相馬双葉漁協 原釜支所／相馬漁業産直研究会）

■ ポスターセッション ■

11時00分～16時00分　ホールでポスター展示による研究報告を行いました。

３．写真：ポスターセッションとサイエンスカフェ開始前

写真１　開催当日は大学祭（海鷹祭）の最終日。会場の楽水会館入口では、学生スタッフが海鷹祭に来場された方々にちらしを配布して、福島の海プログラムへのご参加を呼びかけました。

写真２　午前11時から楽水会館ホールでポスターセッションを開始。東京海洋大学（海洋大）、福島県水産試験場（福島水試）の研究成果や福島県漁業の試験操業の様子をポスターや動画で紹介しました。

写真３　13時30分、サイエンスカフェ開店直前。一つのテーブルにいろいろな立場の方が混ざるように座り、活発にお話しいただきました。また、会場後方に椅子も並べ、気軽に立ち寄り、お話を聴いていただけるようにもしました。

この日開かれたサイエンスカフェは、「いわきの海と魚を語ろう～いわきサイエンスカフェ」の第24回も兼ねています。

「いわきサイエンスカフェ」とは、 2011年11月以来、水産業の復興のための情報共有を目的に、水産業関係者が連携して福島県いわき市で毎月開催されている会合です。「いわきサイエンスカフェ実行委員会」（図1）という任意団体が主体となり（事務局はいわき市水産振興室）、福島県水産会館（いわき市）で毎月1回、土曜日に開催しています。

図１　いわきサイエンスカフェ実行委員会の構成員

いわきサイエンスカフェの内容については
いわき市 農林水産部 水産振興室
http://www.city.iwaki.fukushima.jp/bukyoku/noseisuisanbu/suisanshinko/014657.html
をご覧ください。
☎　お問い合わせ ０２４６－２２－７４８７

４．写真：サイエンスカフェ 前半

写真４　会場では８つのテーブルにわかれて座りました。左手前は水産業普及指導員の千代窪孝志さん（福島県水産事務所）、中央正面は漁業者の馬目祐一さん（いわき市漁協）、右手は伊藤友加里さん（東京海洋大学）。

写真５　お話を聴いた後、ポストイット紙に質問を書き、テーブルで出して話し合います。正面は荒川久幸さん（東京海洋大学）、右手奥は水産業普及指導員の鷹崎和義さん（福島県水産事務所）。

写真６　いわきの磯根や砂浜の生物の放射性物質と行動について語る、荒川久幸さんと内田圭一さん（ともに海洋大）　。会場後方に置いた椅子がほぼ埋まるほどの盛況でした。

写真７　沿岸生態系における放射性物質の分布について語る、石丸隆さん（左）と神田穣太さん（右）（ともに海洋大）。

写真８　福島県水産試験場が毎週おこなっている水産物の放射性物質モニタリング経過を報告する神山享一さん（福島県水産試験場）。

写真９　質問をテーブルで整理する水野拓治さん（福島県水産試験場）。 右端は漁業者の宍戸典顕さん（相馬双葉漁協／相馬漁業産直研究会）。

5．写真：サイエンスカフェ 後半

写真10　休憩時間には、いわき市水産振興室の河野拓馬さんと吉田宜弘さんがサンマのみりん干しの試食会を開きました。

写真11　漁業の現況について語る、いわき市四倉の漁業者・佐藤芳紀さん（左：いわき市漁協）と山野辺貴寛さん（右：福島県水産事務所）。

写真12　漁業の現況について語る、相馬市原釜の漁業者、佐藤泰正さん（左：相馬双葉漁協）と千代窪孝志さん（右：福島県水産事務所）。

写真13　この間、会場後方では、早乙女忠弘さん（福島県水産試験場）ほか、福島県職員の方々がテーブルで出た質問を模造紙の上で整理しました。

写真14　平川直人さん（福島県水産試験場）ほか、福島県職員の方々の進行で、テーブルから出た質問をもとに疑問や答えをわかちあいました。

写真15　閉店のご挨拶は、漁業者の安達広昭さん（相馬双葉漁協／相馬漁業産直研究会）。

6．参加者・スタッフの「ふりかえりシート」から

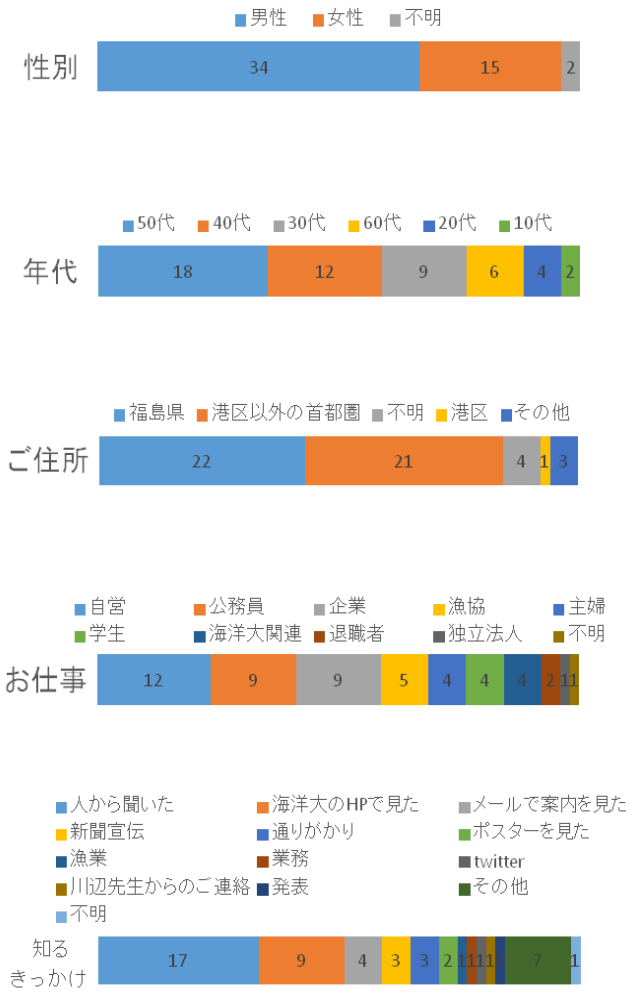

図２　サイエンスカフェ終了時に記入いただいた「ふりかえりシート」の回答者（使用許諾済）51人の属性．（無回答の項目もあります．）

本報告の引用は、次のようにお願いします：
11月3日福島の海プログラム@海洋大実行委員会、「海洋大と福島水試が測った福島の海 報告」、2013年11月.

本報告についてのお問い合わせ先：
〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
東京海洋大学 江戸前ESD協議会
☎ 03-5463-0574（川辺）

✍ 印象に残ったこと、ご感想、ご意見など

- 漁業者の生の声が聞けてよかった 。
- 大学の研究、国や県の研究、いろいろありますが、全体のマネージメントと普及啓発について、気になりました。
- 大変重要な意義ある企画であり、グループワークの形式によるアプローチもよかった。継続して開催されることを期待します 。
- 応援してくれている方は確かに存在する 。
- もっと深く、考える必要がある（勉強をもっとする）と思わされた 。
- 現場の方々の意見を伺えて、とてもよかったです。応援しております 。
- 試験操業の目的、仕組みなどを知ることができた。漁業者によっても参加できていない方が半数もいるという現状に心が痛んだ 。
- 色々な省庁、組織が調査をして、経時的に安心できる方向になっている事実をもっと分かりやすく日本、世界に説明する必要があると強く感じた。「試験操業」という言葉は「安全性を試験する」と思っている人がほとんどであり、この誤解から正していかないとダメだ 。
- 福島の方々そして研究、調査されている先生方、本当に大変だと思います。みんなでお話しできたこと、お話しを聞かせていただいたこと、本当によかったです。大事な日本を守っていきたい 。
- 現場の方々の意見を聞かせて頂く機会があまりないので、とても勉強になりました 。
- 福島の魚介類の大部分は安全であることが理解できた。消費者はこの点をもっと理解すべきだと思う 。
- 福島の漁業の現状について知ることができました。ありがとうございました 。
- もっとこのような機会をもってほしい 。
- 消費者は、食の安全に、強い関心を持っているという印象を受け、その不安を解消すべく、漁業者、大学関係者、水産試験場の方々の努力等を感じることができました。
- 大学の先生、福島県水試漁業者などから、多くの人が参加し、現場の声を聞けたので、大変良かった。事前のパンフレットに「あなたの疑問、質問に何でも答えます」などPRしてもよかったです 。
- 福島県以外でこういう活動をしてもらい、福島の漁業の現況を知ってもらえることは、漁業に携わる者にとって励みになる 。
- 出席されている人が「何を不安に思っているのか」をもう少し掘り下げられるとよかった。研究者や現地の人と想い、活動を一方的に伝える部分が多かったように思う。
- 福島の海の現状が分かりました。これまで不安だった魚の購入もできそうな気がしています。
- 後ろの席にいる人への配慮というか、参加させようとする試みがいろいろあって、面白く思いました。この辺に住んできて福島水試や漁業者の方のお話を聞けるのはとても貴重でありがたかったです 。
- もう少し疑問や思いをシェアする時間が長かったら、と思いました 。
- 現地の関係者のお話を直接伺えて大変良かった
- いわき沖試験操業開始おめでとうございます。サイエンスカフェ含め継続的な情報発信の取り組まれておられる関係者の皆様にお礼申し上げます。